

SDGsのゴールが書かれた朝日新聞社の副教材「ペタッとSDGs新聞学習ふせん」を使って学ぶ児童。いずれも我孫子市の市立我孫子第四小学校



10年後の手賀沼のため 何を SDGs授業で学ぶ



我孫子四小でワークショップ

我孫子市立我孫子第四小学校で2日、新聞の読み方を学びつつ、地元にある手賀沼の水辺環境をSDGs（持続可能な開発目標）と関連づけて考えるワークショップが開かれた。朝日新聞社の社員4人が講師を務めた。

実施したのは5年生の4学級（約160人）。1時間目は朝刊を手に取り、記事の構成などを学んだ。その後、SDGsの17のゴール（目標）が書かれた朝日新聞社のオリジナル副教材「ペタッとSDGs新聞学習ふせん」を使い、SDGsに関係があると思った記事にふせんを貼り、意見を書いて発表した。

2時間目は、かつて水質ワースト1だった手賀沼の水辺環境をテーマにSDGsとの関連を考えた。我孫

子四小は4年生で手賀沼の概要を学び、今年はSDGsを学習している。手賀沼に生息する野鳥や魚類、地域の野菜、ごみの状況を学ぶ体験学習も実施した。

それらの取り組みをふまえて、学びを一步深めた。干拓で面積が減ってきたことなど、手賀沼の特性を理解。水質の変化をデータで押さえ、汚濁の原因も学んだ。下水道の整備で生活排水に基づく汚れが減った一方、枯れ葉や道路ほこり、土砂などの「自然系」の汚れが目立ってきた現状を知ると、驚きの声があがった。最後は、「10年後の手

賀沼はどうあってほしいか」「そのために、何に取り組むべきか」を考えて意見を述べた。松本菜愛さんは「手賀沼はきれいになってきたけど、いろんな要因で汚れにつながっていることが分かった」。新真翔人さんは「手賀沼の面積や水深など、初めて知ったことがたくさんあった」。桜井陽奈子さんは「とても良い経験になった」。平本壮真さんは「新聞にSDGsの話がいっぱい載っていることが分かった。自分もSDGsを実践したい」。この授業は我孫子一小でも11月末に実施する。SDGs授業の申し込みは、朝日新聞のサイト（<https://www.asahi.com/corporate/nie/>）へ。